

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

夜間定時制高校として果たすべき役割をふまえ、命の大切さや他者を思いやる豊かな人間性の育成に取り組むとともに、地域社会に根ざした学校づくりをめざす

- 1 生徒一人ひとりが、学ぶことの大切さを知り、生涯にわたって豊かな生活を築くことのできる力を育む教育活動を展開する
- 2 自尊心を育み、人を思いやる人間性を養い、自分を律して自立した生活を営むことができる生徒を育成する
- 3 地域社会に貢献できる人材の育成をめざす

2 中期的目標

- 1 基礎基本の学力を身につけさせるとともに、生徒の希望する進路の実現をめざす
 - (1) きめ細かな分かりやすい授業展開を行うなど、教員の授業力の向上を図ることにより、基礎基本の学力を身につけさせる
 - (2) 多様な生徒に対する進路選択のサポートを強化するとともに、総合学科としてのカリキュラムの充実を図る
 - (3) 入学した生徒全員が確かな学力を身に付けるよう取り組みを推進するとともに、各種資格取得のための支援体制を強化する
 - (4) 生徒一人ひとりが「入って良かった」と実感できる学校をめざし、長欠及び中途退学の抑止に努める
 - (5) 生徒の自己実現の達成のため、あらゆる機会を通じてキャリア教育の充実を図り、すべての卒業生の進路決定をめざす
- 2 豊かな人間性の育成と生徒自らが活気ある学校生活を送るための支援を進める
 - (1) あいさつ運動の定着化により、社会人として必要な基本的生活習慣と規範意識を身に付けさせる
 - (2) 部活動の活性化を図り、心身ともに健康で実社会を生き抜いていくたくましさを育む
 - (3) 人権尊重の視点にたった教育活動に積極的に取り組み、自尊心と他者を思いやる豊かな人間性を育む
 - (4) 家庭・地域との連携、SW（ソーシャル・ワーカー）等外部機関の活用を図る
- 3 開かれた学校づくりのための取り組みを推進する
 - (1) Web の活用などの工夫により、地域との連携や地元中学校への広報に努める
 - (2) 地域から愛される学校づくりに努める
- 4 学校運営体制の活性化を図る
 - (1) 各種委員会の統合と再編を行い、円滑な校務運営を推進する
 - (2) 各種校内規程の見直しを行い、時代の趨勢に適応した組織作りに努める
 - (3) 学校経営計画に定めた、めざす学校像や目標の達成に教職員が一致協力して取り組む

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(1) 3 年間の経年変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者・教員の肯定的な意見の割合は、全体として特に大きな変化は見られない。 ・保護者の肯定的な回答が増加が見られる。ただし、提出方法を多様化するなどの工夫をしたが、3 年間で提出数が 28→18→12 と推移し、減少傾向に歯止めがかからない。 ・学校生活の満足を問うものについては、生徒・保護者とも肯定感が高く出ている。 ・「先生は、悩みや相談に親身になって対応してくれる。」は、生徒・保護者の肯定感の高さと教員の自身の評価が一致し、肯定的な意見が増加傾向にある。 ・行事や部活動は、3 年間で生徒・教員の肯定感に変化はないが、保護者の肯定感が増加傾向にある。 ・いじめについては肯定的なとらえ方が増える一方で、人権教育については「わからない」とする回答が増加している。 <p>(2) 生徒と教員及び保護者と教員の回答傾向の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員がある程度高い評価を行っている項目（「悩み相談」「校則」「行事・部活など」「健康指導」「非常時の行動」「家庭との連携」）でも、生徒の評価はバラつきが大きいものがある。その中でも「低学年からのキャリア教育」など、肯定感に乏しいところが見られる。 ・校則について、教員の校則の妥当性についての評価は高いが、「厳しい」とする生徒の評価が微増傾向にある。 ・保護者の回答には、「わからない」とするものが多い。 ・施設設備についても、生徒・教員共に肯定感が低い。 <p>(3) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の学校への関心を高める工夫が必要で、情報伝達を含め様々な形での保護者との連携を考えなければならない。 ・低学年から卒業後を見据えたキャリア教育・進路指導の体制の強化を考える必要がある。 ・人権教育については、生徒間の格差が大きく表れているので、すそ野を広げる活動の工夫が求められている。 	<p>第一回 6月20日(金) ー授業見学と協議ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒を引き付ける工夫が課題である。出席がままならない生徒もいる中、少人数ならではの先生と生徒のやり取りも見られ、専門性や粘り強い指導で頑張っている。 ・生徒の「甘え」を断ち切ってやることも必要である。 ・「空欄あてはめ式」プリントが多くなりがちだが、功罪を考えて工夫をして欲しい。 ・授業観察で、席をすすめてくれるなど気遣いのできる生徒もいた。色々な形で授業に参加しようとする姿が見られる。夜間中学卒業生を始め年齢や環境の多様な生徒を受け入れ、交流を通して教師が成長を支援する方法があるのではないかと。 ・色々な世代の生徒を引き受けることは、先生の苦労が増えるところであるが、「学習の姿勢」などでよい影響を与えることも多く、よい雰囲気を作ることも可能になる。 <p>第二回 11月7日(金) ー文化祭の見学と協議ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生が何人も来ていて、びっくりした。 ・多くの作品展示など、生徒の自己肯定感につながる発表がよかった。 ・「文化祭」の看板が校門にほしい。 ・生徒の参加率のさらなる向上が課題ではないか。 ・このような行事を通して、信頼できる先生を見つけることや友人関係の構築を提供するのが、この学校の使命である。中学校の先生方も参加されていてよかった。 <p>第三回 2月6日(金)</p> <p>○授業アンケート、実態調査、自己診断結果の分析について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業している生徒が思ったより多い。 ・自己診断で、評価が「わからない」とする回答が少なからずみられる、生徒に対して問題の解決という姿勢でなく、親身になっているという姿勢が大切ではないか。 ・校務処理システムだけでなく、生徒の出席管理などについてきめ細やかな対応が必要。 ・保護者の評価は高いが、アンケートの提出率が低い。 <p>○学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格の取得も大切だが、スモールステップで達成感のある検定の利用もよい。 ・スクールカウンセラーだけでなく、ソーシャルワーカーの利用はどうか。また、スクールカウンセラーが利用する部屋の場所や衝立の利用などの環境面での工夫を、利用促進のために考えてみるのも良いのではないかと。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力の向上と自己実現の支援	(1) 基礎学力の向上のために授業を改善する (2) 長欠や中退防止への対応 (3) 進級、卒業に向けた早期段階からの意識づけとキャリア教育の充実	(1) 生徒の基礎学力向上に向け、「わかる授業」実践のため、教員相互の授業公開・意見交換を行う ・定期考査や授業アンケートを活用し、生徒の授業内容の理解度やニーズの把握し、授業改善の推進やシラバスを充実させる (2) 保護者との連絡体制・連携の強化と家庭訪問等の早期対応 ・保護者懇談会は勿論、機会を捉えて生徒面談を行い細やかな意思の疎通を図る (3) 生徒のニーズに応じた、教科科目の選択や受講指導の実施 ・教科担当者会議を充実させ、担任や学年団が連携し共通理解を持つ ・進路指導の充実のため、公共職業安定所等との連携や企業訪問による就職先の開拓 ・あらゆる機会を通じてキャリア教育の充実を図る	(1) 研究授業の年3回の実施と授業改善につなげる方法の工夫 ・各教科・科目 IzSoTeiStandard の確立と公開・評価・改善 (2) 保護者へのメール一斉配信、平成 26 年度当初に試験的实施 ・出席率の前年度比 5%増 (昨年度 69.1%) ・中退率の前年度比 5%減 (昨年度 2 月現在 10.2%) (3) 資格取得合格者数、前年度数を維持 ・応募前職場見学会や企業訪問、前年度レベルを維持 ・進路決定率 100%の実現	(1) 様々な形態の授業研究を試みたが、授業改善につなげる工夫が不足(△) ・各教科での作成は行ったが、検証・改善までは至っていない。(△) (2) 一斉配信の試験的实施を 5 回行った。(○) ・今年度の出席率は 66.8% (△) ・今年度の中退率は 8.3% (○) (3) 資格取得合格者数 60 人で、前年の 20%増。(◎) ・応募前職場見学会は 53 社、参加数 68 人で前年と同程度。(○) ・進路決定率 100%を達成。(○)
2 豊かな人間性の育成	(1) 円滑な人間関係を築くためのマナーや規範意識の向上 (2) 安らぎのある学校環境の整備 (3) 生徒会活動・部活動の活性化 (4) 他人や自分に対する人権意識を向上させる	(1) 登校時の正門前で「あいさつ運動」の継続と、全ての授業の開始・終了後に「起立・礼」を励行する (2) 正門前から玄関に至る緑化運動(四季の花植え)と冬季のイルミネーションでの生徒の迎え入れ ・グラウンドの照明、校舎周辺の街灯など、環境整備に力を注ぐ ・スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の充実を図る ・SSW(スクール・ソーシャル・ワーカー)の導入やCSW(コミュニティ・ソーシャル・ワーカー)との連携強化 ・学年団や分掌等、あらゆる場面での組織的対応の実践 (3) 生徒会活動・部活動の活性化 ・生徒会活動で取り組む清掃活動の参加者数の輪を広げ、普段の清掃に繋げる ・生徒会活動を通じ、学校の中核となる生徒を育成する (4) 身近な差別事象や人権問題を取り扱うことで意思の向上を図る ・薬物乱用防止教室、交通安全教育などは具体的な内容を伝えることで充実を図る	(1) 授業開始、終了時の挨拶実施の励行と定着 (2) 教職員や保護者に限らず、多くの生徒の参加を促す ・門付近の照度 5%向上とイルミネーションの拡充 ・昨年立ち上げた「教育相談校内委員会」の活動を強化 ・CSW 等外部機関との連携による保護者・家庭の立て直しにより、生徒の学習充実・進路実現をめざす (3) 部活動参加者の 5%増加をめざす ・清掃活動参加者数の増加 (4) 学校教育自己診断の生徒の人権に関する設問への肯定的な回答率 5%向上(昨年度は 49%)	(1) 挨拶の励行は定着している(○) (2) 緑化対象地帯である「和泉総合庭園」を改修(○) ・照度は部分的に向上、イルミネーションの追加を行った(○) ・「教育相談校内委員会」は、定例化と安定化している(○) ・様々な事例で外部機関との連携が行われている(○) (3) 部員数が増加し、近畿大会・全国大会への参加等成果も上がっている(◎) ・生徒会による清掃活動は後半低調であった。(△) (4) 人権に関する設問への肯定的な回答率は 9%低下、その分「わからない」が増加(△)
3 地域社会との連携	(1) 開かれた学校づくりをめざした取組 (2) 「ものづくり体験学習」の開催	(1) エコデンレース・秋季発表大会・産業教育フェア等への積極的参加や Web の活用により、本校の教育活動の成果を地域に広報する ・校内での美化運動に加え、学校周辺の清掃活動などの定着 ・文化祭等の学校行事への近隣住民・中学校教員を招き、学校の状況を知らせるとともに意見を参考にして今後の学校運営に資する (2) 夏季休業期間を利用して地域の児童・生徒、保護者や小中学校教員を対象とした「ものづくり体験学習」を実施する	(1) 地元中学との連携を年 3 回行い、その内容・方法を工夫する ・校長のブログを編集して PDF 化し、1 年間の教育活動を Web ページにアップする ・生徒と教職員による地域清掃の定着 ・文化祭等の学校行事への外部参加者の維持(昨年度 20 人) (2) 「ものづくり体験教室」参加者数の増加(昨年度 5 名)	(1) 授業公開形式を取り入れるなど、工夫を行った。(○) ・昨年度分を春にアップし、今年度分も 3 月末には完成。(○) ・年 2 回が定着(○) ・昨年度とほぼ同数の参加を得た(○) (2) 3 名の申込みに留まった(△)